

## 1. 「高校生のための文化講演会」を開催(9月8日)

9月8日(水)6限、各教室へのオンライン配信により「第56回高校生のための文化講演会」を行いました。

この講演会は、1966年にスタートし、当初は集英社が主催していましたが、1976年に財団法人(現・公益財団法人)一ツ橋文芸教育振興会が創設されたのを機に、以後は同財団が全国の地方新聞社と集英社の協力を得て実施しており、これまでに講演会の開かれた高校は、全国で延べ4,132校、講演を聞いた高校生は約354万人になるそうです。(「高校生のための読書への招待2021」P.48参照)

今回は、「インターネットと著作権～海賊版問題を中心に」と題して、集英社編集総務部の伊東敦先生にご講演いただきました。伊東先生は、2010年に集英社の知的セクションに異動されてから海賊版対策に関わり始め、自称、「世界で一番、マンガの海賊版に詳しい男」だそうです。

現在はスマホがあれば様々なコンテンツが無料で見られますが、そのひとつがマンガの海賊版。無料で見られるサイトが数多く存在しますが、タダだから読んでしまって良いのか、よく考えて行動する必要があります。違法サイトと知りながらマンガをダウンロードして読むと、有罪の場合、2年以下の懲役か200万円以下の罰金、またはその両方が科されることもあります。苦勞してお金をかけて生み出されたマンガに対して、相応の対価が保証されなければ、新しいマンガが生み出されないことにもつながります。皆さんが大好きな、日本が世界に誇るマンガ文化を守るためにも、海賊版を許してはなりません。

なお、9月9日(木)付の神戸新聞(明石版)に記事が掲載されていますので、そちらもご覧ください。



教室の様子



MAR 教室でも先生が視聴